

令和6年度学校評価報告書

令和7年3月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川東高等学校長 郡 司 慶 次

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

【全日制課程】 自らの感性や創造性を磨き、自分の人生や社会とのつながりを実感できる生徒、自らの能力を引き出し、その能力をもって将来遭遇する諸課題に主体的に協働して解決することができる生徒、心豊かで、リーダーシップを発揮して行動できる生徒を育成する。 【定時制課程】 基本的な生活習慣の確立に向けて、自らの感性や創造性を磨く生徒、持続可能な地域の創り手としての資質・能力を身に付けた生徒、心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶し、笑顔で生活できる生徒を育成する。	
--	--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
【学習指導】 主体的に学びに向かう姿勢、基礎的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を育成するための教育環境の整備	○教職員は育成すべき生徒像や旭東DPを踏まえてより実効性のある教育課程を見直し、編成するとともに、授業改善に組織的に取り組むことができた。 ○生徒は週1000分の学習時間の確保や質の向上に努めるとともに、自らの学び方を確立し実践できた。 ○教職員が指導と評価の一体化を図り、生徒が授業満足度を高めることで、自ら深く学ぼうとする姿勢を醸成できた。 ○生徒は「総合的な探究の時間」における見方・考え方を、学習や諸活動との往還をとおして生涯にわたる知的態度に発展・深化させることができた。	○保護者のアンケート結果から、一定の評価を得られている。しかし、生徒の授業アンケート結果では、評価が低いため改善を望む。 ○進路実績が好調のため、このまま教育課程を維持してほしい。 ○反面、芸術科目の複数設置と教員確保をしてほしい。
改善方策	○「思考・判断・表現」に対する満足感が低いため、シラバスを活用した授業改善を図る。 ○「総合的な探究の時間」と各教科の探究活動の一体化を図る。	
【生徒指導】 共通理解と生徒理解の上に立った自覚、責任ある、自立的、自主的な生徒の育成	○教職員による家庭や関係機関との連携、深い生徒理解の中で、生徒は基本的な生活習慣を確立し、社会性を培い、自立心を向上することができた。 ○教職員の法令等に基づく発達支持的・課題予防的指導のもと、生徒は事故の未然防止に継続的に取り組んでいた。 ○「道立学校に係る部活動の方針」を踏まえた本校の活動方針の周知、理解を深めるとともに、本校の持続可能な部活動の在り方について検討が進められた。	○「いじめ見逃しゼロ」を目標に、積極的認知と好ましい人間関係の育成を重点に置いてほしい。 ○文武両立を図りながら、先生方の勤務超過を気を付けてほしい。 ○自治的な生徒会活動が行われているものと考え、今後も生徒が主体的に活動できる生徒会活動について指導を継続する必要がある。
改善方策	○危機管理対応マニュアルを見直し、全体で情報共有をしながら再発防止に努める。 ○持続的な部活動の在り方についての検討を進め、生徒の実態に合わせて精選する。	
【進路指導】 進路意識の高揚と実力養成による生徒の進路実現	○生徒の将来の希望を踏まえた体系的・継続的な進路指導をとおして、生徒は着実な成長を図りつつ実力を身に付けることができた。また、教職員の的確な情報提供や関係機関との連携の強化によって、生徒は学年ごとの目標を目指して進路意識を高揚することができた。 ○生徒は充実したキャリアガイダンスを活用して、早期の進路目標設定と自らが目指す進路実現を着実に図ることができた。また、教職員の豊富な経験とデータ等に基づく実力養成指導をとおして、生徒は必要な資質・能力を身に付け、進路実現	○様々な情報収集と情報分析、その共有がされており、そのことが生徒に対する指導においても活かされている。今後も維持していただきたい。 ○進路実績が好調のため、広報活動に努めてほしい。 ○卒業生に各分野で活躍されているので活用してほしい。 ○今後も内容の充実を図りつつ継続した指導が必要である。

	に向けて意欲的に取り組んだ。	
改善方策	○総合型選抜など入試の多様化にも対応させる。 ○進路講演会（学びのフロー）で本校卒業生を活用する。	
【健康安全指導】 自他の生命を尊重でき、安全な環境整備のできる生徒の育成	○生徒は学校の教育活動全体をととして、学習環境の保全と安全意識を高揚し、実践的態度を身に付けるとともに、自他の生命を尊び、成長に合った道徳観や倫理観を育てることができた。 ○教職員の特別支援教育への理解促進とカウンセリングマインド向上を図り、生徒が困り感を抱えている場合、相談活動をととして解消に向けて生徒とともに取り組むことができた。	○教育相談の充実で休みがちな生徒へのケアに努めてほしい。 ○普段の授業の中で道徳的な教育を広めてほしい。
改善方策	○あらゆる活動で道徳観や倫理観を育てる環境作りに努めたい。 ○教育相談の拡充と生徒理解を深める組織体制の構築に努める。	

【学校運営に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
【地域に信頼される学校作り】 保護者等や地域との協働	○学校評価を真摯に受け止め、具体的な改善につなげることができた。また、教育活動を適宜配信し、中学生、保護者等、地域や保護者のニーズに応える発信ができた。 ○保護者等との意見交換の機会を増やし、日常的なニーズを把握し、協力と支えを得ながら理解を深めることができた。	○学校評価やアンケート結果を公表し、情報の共有に努めてほしい。 ○アンケートの回収方法を改善してほしい。
改善方策	○学校評価のアンケート周知にゆとりを持たせたい。 ○学校ホームページを充実させ、学校教育活動を広く周知させる。	
【組織経営】 今日的課題への対応	○ICT機器の活用、資料の事前配布や説明の簡略化など、あり方や進め方を含めて効率的な会議となった。 ○組織や構成など校内体制の改善に向けた検討が行われた。	○ICT活用が業務改善につながっている。このまますすめてほしい。 ○教職員の勤務超過が一定数いるので、業務の平準化など一層進めてほしい。
改善方策	○会議の回数を減らし、より効果的・効率的な進め方や在り方を示しながら余剰により生まれた時間を生徒に関わる時間に充てるよう工夫・改善する。 ○若手教員を中心とする委員会からの意見を取り入れ、風通しのよい校内組織体制を継続して進めていく。	
【教職員の資質向上】 本校教職員としての自覚と責任の共有	○教職員自身が「学び、学び合う」ことができているか。生徒に教えたことが、生徒の学びにきちんとつながっているかを常に振り返って検証することができた。	○研修機会をふやすことで社会的変化に対応できると思われるので、積極的に研修してほしい。
改善方策	○ICTを活用した授業改善や業務改善を更に図りたい。	

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
【学習指導】 意欲的に学び続けることができる生徒の育成	○学び直しを含めた、基本的な学力の定着に努め、生徒に振り返りをさせている。意欲的な学びにつながるように、ICTの活用など工夫改善を継続することができた。 ○基本的なマナーについては徹底されているが、遅刻や欠席については連続してしまう生徒もあり、家庭との連絡を密に取り、指導を継続する必要がある。	○ICT等を活用しながら、多様な生徒の多様な学びに対応しようとしていた。定時制の目的に合った授業内容を行っている。
改善方策	○遅刻や欠席の減少を目指して、家庭と連携しながら粘り強く指導にあたる。ICTの活用については、引き続き研修等へ参加し、指導技術の向上を図る。	
【生徒指導】 共通理解と生徒理解の上に立った自覚、	○生徒会執行部を中心に、学校祭やレクリエーション大会等を自主的かつ積極的に企画・運営した。教職員は、生徒が工夫・改善できるようにサポートした。 ○ルールやマナーについては、生徒たちに自分事とし	○生徒たちが生き生きと学校生活を送っていた。欠席する生徒も少なく、意欲的に授業や行事に取り組んでいる。

責任ある、自律的な行動の育成	て考えさせる指導を継続しているが自主的に守るレベルにはなかなか達しない。 ○いじめ防止基本方針に基づき、未然防止に力を入れた。いじめ防止に関する校内研修を継続的に実施し、組織的対応の強化を図った。 ○定体連等の各種大会が前期に集中していること、学校行事も後期は前期に比べると数が減るために、諸活動を通じた人間関係作りの機会が後期は減っていた。	
改善方策	○生徒たちがルールやマナーを自主的に守ることができる、心に響く指導を継続する。保護者へのいじめ防止基本方針のさらなる周知を図る。後期における諸活動の充実を図る。	
【進路指導】 体験的な学習をととした中長期的なキャリア形成	○4年生が8名、三修制3年生が4名、合計12名が卒業予定である。三修制生徒を含めた生徒が自分の進路について主体的に考え、希望する進路の実現に向けて後期は具体的な取組を行えた。 ○生徒が自分の進路について主体的に考え、希望する進路の実現に向けて後期は具体的な取組を行えた。	○進路目標をはじめ、目標の持てる学校になってほしい。PTAとも協力して、有意義な教育活動を行っていただきたい。
改善方策	○保護者に対する進路情報の提供を充実させる。生徒の多様な進路希望に対応した進路学習について、外部とも連携して充実を図る。	
【健康・安全指導】 発達支持的指導による自己管理能力の育成	○年3回の面談週間を設定、情報共有を丁寧に行うことができた。 ○危機管理マニュアルに基づき、教室や生徒玄関の施錠の徹底と設備点検を継続して行った。 ○各自の特性をお互いに受け入れたり、違う国の文化を持つ生徒と接したりすることで、多様性に適応する雰囲気は生徒の中に広がっている。	○困り感のある生徒たちに対して、個別に丁寧に対応しようとしている。小・中学校の時に不登校だった生徒たちが、高校に入り、通えるようになっていくことは本校の教育活動の成果である。
改善方策	○引き続き、生徒個々に応じた対応をすすめ、充実した学校生活を送ることができるよう支援する。	

【学校運営に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
【地域に信頼される学校作り】 保護者や地域との協働	○評価会議での反省に基づいて課題を明確化し、各分掌が具体的な取組を考え、計画的に課題解決に向けて取り組むことができた。 ○学校ホームページを中心に、後期は行事や教育活動を積極的に発信することができた。 ○PTA主催の懇親会を実施、また、学校行事の案内を保護者等に配布し、学校にお越しいただき、生徒の様子を見ていただく取組を行った。	○保護者等が集まり、話しをする機会を増やし、保護者等に学校教育活動が理解されるようにしていただきたい。本校が、セーフティネットとしての役割をになっていることは地域に認められていると思われる。
改善方策	○保護者等への新たな連絡手段を構築し、教育活動の周知を図る。 ○保護者等のニーズをより的確に把握するための方法を検討する。	
【組織運営】 今日的課題への対応	○Googleの共有ドライブの活用で、会議の効率化やペーパーレス化が進んだ。また、短い時間やスキマ時間を活用し、会議にかける時間効率を上げることができた。 ○各分掌とも、定例の会議だけでなく、課題が見つかるとその都度集まり話し合いを行えた。分掌部長が、先を見通しながら、計画的に準備を進めることができた。 ○教職員数が少ないため、まとまりが良く、情報共有や意見交換を行うことができた。分掌で出された意見が学校体制の整備につながった場面が多かった。	○教職員の数が少なく、まとまりが良いメリットを生かし、今後も良い教育活動に向けて取り組んでいただきたい。
改善方策	○ICT活用のさらなる充実で、一層の効率化を図るとともに、情報や意見交換の機会を大切にする。	
【教職員の資	○各教科の研修会はもちろん、特別支援や外国籍生徒	○多様な生徒の多様な学びに対応できるように、こ

質向上】 本校教職員としての自覚と責任の共有	への指導どのようにすれば良いのかをテーマにした研修会を実施し研鑽に努めた。特別支援教育に係る校内研修を実施。インクルーシブ教育について共通認識を持つことはできた。 ○職場環境としては落ち着いているし、各自が自分の仕事をしっかりやり切ろうとする雰囲気になっている。不祥事防止のためのセルフチェックや校内研修を実施した。	れからも研修や研究に励んでいただきたい。働き方を変えながら、同時に、心にゆとりを持ち不祥事防止に取り組んでいただきたい。
改善方策	授業に関する教員間の情報交換の仕組みを充実させる。職員相互を思いやりながらも相互牽制により引き続き不祥事の防止に努める。	
公表方法	○学校評議員会および同窓会、P T A、定時制教育振興会への公開。 ○ホームページへの掲載。	

- 3 添付資料
- (1) 自己評価（全・定）
 - (2) 学校関係者評価（全・定）
 - (3) 保護者等アンケート集計結果（全・定）